



家庭教育学級
「宮之浦里めぐり」

60歳還暦同窓会

【写真左】家庭教育学級「宮之浦里めぐり」は大盛況！地域に息づく風景は、人々が守り繋いできた景色。改めて、「ふるさとっていいな」という思いが胸に広がる時間となりました。

【写真右】60歳同窓会の37名様が宮浦小学校にいらっしゃいました。当時と同じように椅子に座り、懐かしい思い出に浸ったり、大きな声で校歌を歌ったりしました。学び舎での再会は、尽きることのない思い出話とともに、温かい時間を紡いでおられました。



屋久島町立宮浦小学校学校便り



進め！宮浦っ子

2025

11

なかよし体育



宮浦小ブログ



なかよし音楽会

【写真左】4年生は、なかよし音楽会に出演しました。会場から温かい拍手が送られ、仲間と音を合わせながら作り上げた時間が、子どもたちにとって大きな自信に繋がった瞬間になりました。

【写真右】読み聞かせグループ『お話しっぱ』の皆さんが、再び学校にお越しくださいました。楽しいお話や表情豊かな演技！子どもたちの笑顔と、読書への意欲を育ててくださっています。



お話しっぱ様公演

【写真左】第22回鹿児島県長距離走大会の800mで、本校の6年女子児童が2分28秒の記録を出し、鹿児島県1位となりました。最後まで力強く走り抜く姿に感動！！

【写真右】本校金管バンドが、鹿児島県管楽器演奏会で推薦をいただき、九州大会への出場が決まりました！日々の練習で磨いてきた音色が評価され、子どもたちの表情にも誇りがにじんでいます。九州の舞台上で奏でる新しい一歩が、とても楽しみです。



九州大会進出！！

宮浦小学校金管バンド
鹿児島県管楽器演奏会推薦

ハリセンボンの呪い

校長 馬場 智也



辺りに私の悲鳴が鳴り響いたことは、ご想像の通りです

小学校6年生の少年だった私は、台風一過の海岸を一人で歩いていた。台風後の海岸には、普段見ることのないような貝殻やサンゴ、生き物や漂流物などが打ちあがっています。太陽の光を受け、きらきらと輝くそれらの漂着物は、それはそれは宝箱をひっくり返したようでした。珍しい貝殻を拾ったり、生き物を観察したりしながら歩く私の気持ちは、宝物を発見する冒険家のようにだったのかもしれない。そんな私の目の前に一匹の魚の死骸が打ちあがっていました。ハリセンボンです。愛らしい顔をしています。体が中にびっしりとげを生やし、死んでしまったからでしょうか、その体はパンパンに膨れています。まるでボールのようです。いや、ボールそのものです。そのように感じてしまった私には、かわいそうだという気持ちは一切なかったのです。次の瞬間、「飛んでいけえっ」の声とともにボールとボールのように蹴り上げていました。当時はアニメ「キャプテン翼」の影響もあり、サッカーが子供たちの遊びの主役でした。多分に漏れずサッカーが大好きだった私の中でそれはもうボールでしかなく、「ボール」とききな放物線を描き遠くに飛んでいくはずでした。ところが、飛

んでいく予定だったそのボールのようなものは遠くどころか、飛んでいくことさえしていないではありませんか。私の白いズックのつま先にびたつと張り付いているのです。ん？「うぎゃああー！」辺りに私の悲鳴が鳴り響いたことはご想像の通りです。当時の小学生のほとんどが履いていた白いズックの靴底と表面をつなぐゴムすらも突き抜けたハリセンボンのとげは私の親指の先っぽに突き刺さり、ボールのように飛んでいくことを拒否したのでした。その後、私が「ハリセンボンの呪い」と名付けたこの出来事は、誰からも決して「大変だったね」と同情されることはなく、「ばかだよね」と言われるのがおちなものでした。

ところで先日、第2回屋久島町校外生活指導連絡協議会が開催されました。ばかなようなお話をした後にもじめな名前の会ですが、とても大切な内容だったのでお伝えしておきますね。屋久島警察署の方による「SNSトラブルの事例や対処法」という講演では、小・中・高校生が遭遇した事件について話がありました。SNS上では地方や都会といった地理的な距離は関係なく、どこでも事件に巻き込まれる恐れがあることを大人は知っておくことが大切だということでした。

そういえば、鹿児島県でも高校生が大麻を所持して捕まる事件がありました。学校でもSNS等とのかわり方や薬物乱用が健康や人生に及ぼす影響等について学習しています。それにもかかわらずこのような事件が起きるといことは、子供たちにとって自分事として十分学べていないということなのかもしれません。あるいは目の前にある誘惑は、大人が思っている以上に子供たちにとって衝動を抑えられないものなのかもしれません。この会に先立って行われたPTA連絡協議会の中で石田尾教育長が、子供を自立に導く「子育て4訓」(※下図)についてお話しされました。子供が自立していく力を身に付けることができるように、学校・家庭・地域がそれぞれの立場で、それぞれの距離間で伝えていくことが大切だと感じました。

さて、「ハリセンボンの呪い」は、私が担任をしていたとき、子供たちに安全な行動をするための心構えとして「自らの行動による結果の責任」について話す際の鉄板ネタでした。うけはいいのですが、果たして心に響いていたのか……。しかも、この話には続きがあって悲劇？は大人になっても続いていくのです。そして「左足の呪い」に発展していくのですが、それについてはまた今度……。

※ 子育て4訓

- 1 乳児はしっかり肌を離すな
- 2 幼児は肌を離せ 手を離すな
- 3 少年は手を離せ 目を離すな
- 4 青年は目を離せ 心を離すな

12月	
2	お茶とのふれあい事業(5年)
5	校内持久走大会, 学級PTA, 第2回学校保健委員会
10	※持久走大会予備日
11	委員会活動8
13	土曜授業, 屋久島ジュニア検定(5・6年)
15	特別校時(業間カット)
24	終業式

宮浦小から朝焼けを見る